

## 口頭発表B⑨

## Art and Culture Exchange

### 学生プロジェクトによる社会貢献と異分野間連携への取り組み

福岡 佑子<sup>1)</sup>, ドナルド・スタージ<sup>2)</sup>, 英 崇夫<sup>3)</sup>, 藤澤 正一郎<sup>4)</sup>

- 1) 徳島大学総合科学部人間社会学科科目等履修生,  
2) 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部,  
3) 4) 徳島大学工学部創成学習開発センター

#### 1. Art and Culture Exchange とは

Art and Culture Exchange (以下、ACE) は、2010 年度から徳島大学創成学習開発センターの学生プロジェクトのひとつとして、大学内外で子どもたちのアートを通じた国際交流活動に取り組んでいる。創成学習開発センターのプロジェクトとして採択される以前の 2009 年から現在までに 6 か国 (日本・中国・ベトナム・カナダ・ポルトガル・オーストラリア) 14 校の協力を得て収集したアート作品は約 800 点以上に上り、徳島や海外で定期的に展示会・プレゼンテーションを行っている。(表 1 参照)

2010.07	とくぎんトモニプラザ	約 200 点の作品展示 交流会
2010.11	松茂町立図書館	約 20 点の作品展示 交流会
2010.12	韓国海洋大学	学生を対象にプレゼンテーション
2011.01	徳島大学ガレリア新蔵	徳島市協働支援事業 約 600 点の作品展示・交流会
2011.03	子どもフェスティバル (西新町商店街)	商店街の店舗を間借りし 作品展示
2011.03	徳島市役所	国際親善ホールにて作品 約 200 点展示
2011.03	レイリア市	レイリア第六小学校 レイリア市役所にて プレゼンテーション

表 1 2010 年度までの主な活動内容

プロジェクトの目標は以下である。

1. 子どもたち・学生主体での活動
2. 参加者の芸術全般に対する関心の向上
3. 異なる年代・分野・文化間の交流
4. 国際理解の向上
5. 学生の外国語学習の推進

#### 2. 今年度の取り組み

##### (1) チャリティー活動

昨年度の徳島市協働支援事業から交流を続けているポルトガル・レイリア市を訪問中の 2011 年 3 月 11 日、東日本大震災のニュースが飛び込んできた。次々と流れる悲惨な光景に動揺しながらもレイリア市役所や小学校を訪問する中で、現地の人々の日本を思いやる心に触れ、それを何とかして日本の人たちにも伝えたいという思いからメンバーがチャリティーイベントを企画。海外の子どもが描いた絵やポストカードを徳島市の雑貨店「a u d r e y」(4 月 10 日～24 日) および三好市の道の駅「West-West」(5 月 3 日～5 日) でチャリティー販売し、その収益を東日本大震災の被災者支援に充てる取り組みを実施した。絵は 1 枚 300 円以上で購入者に値段を決めてもらい、ポストカードは 1 枚 100 円で販売。収益の 36,212 円は全額、被災者の受け入れを準備している徳島県に寄付された。(2011 年 7 月 14 日付)

##### (2) ACEE2011 口頭発表

2011 年 10 月 7 日～9 日の 3 日間にわたり徳島大学にて開催された工学教育国際学会「2nd Asian Conference on Engineering Education」の学生プロジェクトの枠で口頭発表を行った。発表者の学生にとっては初の国際学会への参加であったが、以下のような成果を得た。

###### ① 自己自信の獲得

参加者の大多数が工学系分野の研究者の中で、国際理解教育を目的とする ACE プロジェクトがどう受け入れられるのか不安な面もあったが、出席者からは温かいコメントが寄せられた。国際学会

という大きな舞台で、英語で発表をしたという事が、今後へ向けての大きな自信につながった。

### ②異分野との交流

これまで馴染みのなかった分野の研究発表を聞いて積極的に質問をすることで、たくさんの人たちと言葉を交わすことができ、つながりがぐんと広がった。今後は現在の活動範囲にとどまらず、工学系分野の人たちとも連携する方法を探っていきたい。

### ③研究意欲の向上

学会の会期中は他の参加者の研究発表を数多く拝見し、話し方・仕草・スライドの使い方・姿勢・目線などの表現方法等、参考にすべき点が多々あった。プロジェクト内容はもちろん、成果を外部に発信する上で欠かせないプレゼンテーションスキルをメンバーそれぞれが習得していきたい。

## 3. 今後の計画

### (1) 展示会 in 徳島

昨年度の徳島市協働支援事業として徳島市とその姉妹・友好都市との交流事業を行った経緯から、徳島市からの依頼により 2012 年 2 月に徳島市役所 1 階国際親善ホールにてアート作品を展示する予定。

### (2) Tokushima Em Leiria

徳島市の姉妹・友好都市で 2011 年 3 月にメンバーの数人が訪れたポルトガル・レイリア市にて、徳島の文化・産業・人々を紹介する展覧会を企画している。徳島市・レイリア市の協力のもと開催時期は 2012 年 3 月 11 日前後を予定しており、学生メンバーは展覧会で使用予定の徳島を紹介するポスターとビデオコンテンツ作製、パンフレットの翻訳などを進めている。

## 4. 評価・考察・課題

一連の活動により、ACE の活動を始めるに当たり立てた目標（1. を参照）は概ね達成されていると評価した。理由を以下に述べる。

1. 活動計画・運営はすべて学生メンバーによってなされ、小学生を対象にした国際交流イベント

を開いた。

2. 作品提供者の子どもたちは創作活動を通してアートに触れた。

3. プロジェクト活動を進める上で、大学・行政・地域社会から異なる年代・分野・文化にいる人々との交流が生まれた。

4. 子どもたちのアート作品から垣間見られるそれぞれの文化、言葉、習慣、日常生活を通して、参加者の異文化への理解が深まった。

5. 海外との教育交流では主な共通語が英語であったことから、学生は実践的に英語を使用する機会を多く得た。また英語圏以外の参加国からの作品を通して英語以外の外国語にも触れるなど、学生の外国語学習に対する意識向上に寄与した。上記に述べたほかにも

- ・チャリティー活動という新たな社会貢献
  - ・学生の自発性・企画運営能力が向上
- などの付加的な成果も得られた。

課題としては

- ・これまでに構築した国内外での関係をどう継続、発展させていくか
- ・異分野との連携へ向けた具体案作成などが挙げられる。